

ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできな
い門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、
あなたには少しばかりの力があって、わたしの
ことばを守り、わたしの名を否まなかったから
である。 黙示録 3 : 8

VOL.01-09 NO.009 2009年12月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール:nanbu-kyokai@nifty.com

URL:<http://homepage2.nifty.com/nanbukyokai/>

リンゴの種

橋本幸夫

「あなたのパンを水の上に投げよ。
ずっと後の日になって、あなたはそ
れを見いだそう。」

(伝道者の書 11 : 1)

開拓時代のアメリカにジョニー・ア
ップルシードという人がいました。彼
は幌馬車で東部から太平洋沿岸を目
指して西へ西へと移住した人々の一
人だったのです。

彼は大量のリンゴの種を蒔きまし
た。しかし移動しながらそうし続けた
ため、種が成長し実がなることを見る
ことはなく、ましてや実を口にすること
などあり得ませんでした。しかし、
何年か後に移住してきた人々は、木に
たわわとつけたリンゴの実を食する
ことができたと言う話を何かの本で
読みました。

でも、この話はうまく出来すぎている
と思いませんか。だってこの人の名
前アップルシードって<リンゴの種
>という意味でしょう。アップルシード
さんがリンゴの種を蒔いて名を体
としたなんて眉唾もの…。

それはそれとして内容そのものは
大いにあり得たことでしょう。

福音の種も同じでしょう。先人が蒔
いたみことばの種を、後の人たちが感
謝と共に実を楽しませていただいで
いる、それが教会なのです。ですから
私たちも次の世代に向けて、おそらく
自分は花も実も味わえないだろうけ
ど営々とみことばの種を蒔き続ける
のです。

パンを水の上に投げるなどナンセン
ス、無駄というものだという声がか
かる中、あえてそうするのです。

それは神ご自身、無謀・無駄・無意
味という現実の中、世と私たちの救い
のためにそのひとり子をお与え下さ
ったのですから。この神の無代価の愛
を知るゆえに、「ただで受けたのだから、
ただで与えなさい」(マタイ 10 :
8)のみことばどおりにするのです。
それが伝道ということではないでし
ょうか。

「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫び
ながら刈り取ろう。

種入れをかかえ、泣きながら出て行
く者は、束をかかえ、喜び叫びながら
帰ってくる。」(詩篇 126 : 5、6)